

氏名	八木 寛之		
学位の種類	博士（文学）		
学位記番号	第 6167号		
授与報告番号	(乙)第 2772号		
学位授与年月日	平成 27年 3月 24日		
学位授与の要件	学位規則第 4条第 2項		
学位論文名	都心繁華街における商店街活動の都市社会学的研究——大阪「新世界」 地域における商店会組織と地域イメージの変容		
論文審査委員	主査 教授 進藤 雄三	副査 教授	伊地知 紀子
	副査 教授 大場 茂明	副査 甲南大学教授	谷 富夫

論文内容の要旨

本論文の目的は、現代日本の都市空間における商店街活動の実態とその社会的意味について、観光化が著しい都心繁華街である、大阪市浪速区「新世界」地域での事例研究をとおして検討することである。

近年、都市や地域の魅力を発信し、他所との差別化をはかる「観光まちづくり」の議論が活発である。しかし、都市社会学の研究では、観光を手段とした地域活性化の矛盾や問題点が指摘されている。このような先行研究に対し本論文が注目するのは、観光化の過程における都市商業者が果たす役割である。そこで本論文では、都心繁華街における商店会組織と地域イメージの変容に注目する。商店や客層の異質性と流動性の高さを特徴とする都心繁華街において、商店主・事業主たちがどのように地域内で共同しているのか／いないのか。そこに、いかなる現代的な課題がみられるのか。以上の課題について、筆者による新世界地域の商店主・事業主へのインタビュー調査および、商店街活動の参与観察をとおして明らかにする。

まず本論文では、対象地域の特性として、①大阪の都心繁華街としての歴史性、②地域イメージの変遷、③商店会組織の基本構成の三点を整理した。以上を踏まえたうえで、商店街活動の特徴を明らかにした。すなわち、商店主や事業主たちは、観光化によって形成された地域イメージに違和感を抱きつつも、商店主・事業主間のコミュニティ形成のために地域イメージを手段として利用していた。また、実際の商店街活動では、地域外出身者によるリーダーシップが発揮されていた。

新世界での商店街活動の事例は、これまでの先行研究の議論に依拠するならば、地域文化や地域景観の記号化・商品化を促進させる側面をもつことを否定できない。しかし、商店主・事業主たちにとって第一義的な問題とされていたのは、商店会組織における「共同」の問題であった。地域イメージは重要な関心事でありながらも、あくまでも商店街活性化の手段のひとつとして位置づけられていた。より重要なのは、従来の商店会組織の運営が厳しいなかで、いかに利害調整をおこない商店街活動を実践していくかであった。それゆえ、「つくられた」地域イメージに違和感を抱く商店主や事業主が多いなかでも、商店街のために「がんばっている」人たちのリーダーシップが発揮されたといえる。

本論文は、都心地域を対象とした、都市社会学のコミュニティ研究として位置づけられる。本論文の知見は、商店街活動の限界を見据えながらも、主体的な取り組みが見られたことであり、商店主・事業主たちによる観光化への組織的・地域的対応のあり様を示したことである。

論文審査の結果の要旨

本論文は、都市における商店街活動の実態とその社会的意味を探ることを目的に、大阪市浪速区の「新世界」を対象事例に設定し、頂点街活動が地域・商店街の再生・活性化に対して果たしうる可能性を、都市商業者の果たす役割と地域イメージ表象の観点から明らかにしようとしている。

本論文において採用された方法は、歴史的経緯の探索に際しては文献資料の渉猟、活動の実際に関しては、長期におよぶフィールドワークのなかで蓄積された参与観察ならびに、インタビューデータの収集と分析に依拠している。論文は全 9 章から構成され、論文の目的と意義を明らかにした序論に

続き、「都心繁華街の研究と戦前期の新世界」と題した第1部では、全体は都心繁華街研究における本研究の意義を確認しつつ、主に戦前期の新世界の概要を提示している。第2部「新世界イメージの変容と商店会組織の特性」では戦後から現在にいたる新世界の変容の過程を、空間的変容・地域イメージの変容、および商店会組織、特に戦後直後に創成された「新世界町会連合会」の活動の二つに焦点化しつつ明らかにしている。第1部・2部は基本的に戦前から現代にいたるまでの変容過程の実態解明に主眼が置かれている。之に対して、第3部は「世界における商店街活動の実践とその意味」と題し、商店街活動を具体的に担ってきた商店主・事業者が、活性化戦略においてどのようにして地域イメージを戦略的に活用し、そこにいかなるジレンマが潜んでいるのかを分析的に検討している。とりわけ、論者は従来の組織とは別途に形成された「若手の会」の活動実態の分析を通して、リーダーシップの可能な条件、詳細なライフヒストリー分析から明らかにしようとしている。

本論文の意義としては、(1)まず「新世界」に関する包括的なデータの整序を挙げることができる。研究の主目的は商店主・事業者の活動にあったとしても、いわば地域研究としての「新世界」研究に対する貢献である。次に(2)これまでの都市社会学的研究において、主たる研究対象として設定されてこなかった都市商業者・店主の意味世界の実態を明らかにして点である。特に、(3)これまで表面的にしか扱われてこなかった「地域イメージ」と意味世界の相互作用の位相を明示的に示したことは、独創的な貢献と認められる。

以上の所見により、本論文は大阪市立大学博士（文学）の学位を授与するに値するものと認められる。